

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り



Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.185

▽トピックス

[1 国際交流員のコラム \(鹿児島県国際交流員 金 孝真\)](#)

ありがとう, 鹿児島

[2 知事の動き](#)

在トリニダード・トバゴ日本国大使が訪問されました(12月22日)

[3 かごしまの国際交流](#)

清華大学の齋部長らが訪問され, MOU(包括協定)3期目の更新をいたしました(12月20日)

[4 かごしまの出来事](#)

第41回いぶすき菜の花マラソン

## 国際交流員のコラム

### ●ありがとう、鹿児島●

—鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）—



鹿児島では、春の訪れを告げるきれいな桜が咲き始めました。街中も、既に春の息吹であふれていますね。

私が初めて鹿児島に来たのは、5年前の春。東京での国際交流員オリエンテーションの後、ときめく心を抱いて、配属先の鹿児島に着きました。その日、風に乗って漂ってきた春の匂い、心地よい暖かい日差し、ずらりと並んだヤシの木など、今でも

鮮やかに記憶に残っています。

しかし、「楽しい時間は、あっという間」だったのか、気がついたら、いつの間にか任期満了が迫っていました。

それで、今日は、鹿児島でのこの5年間を振り返ってみようと思います。

鹿児島に来てわずか2週間でゴールデンウィークを迎えました。海外で生活を始めた娘のことを心配していた両親は、この期間中に鹿児島を訪れました。その時、まだ鹿児島での生活に慣れていなかった私は、両親を連れて市電を乗り間違えました。どうしていいか戸惑っていた時、近くにいた中学生たちに行き方を教えてもらい、無事にたどり着くことができました。その中学生たちには、真剣に行き方を教えてもらったばかりか、最後まで心配そうに見守ってもらうなど、鹿児島の優しさを感じる瞬間でした。



機内から撮った鹿児島空港

両親は、たまに「あの日、少し道に迷ったけど、私たちには、アニメの一場面のように記憶に残っている。あの日の風景や人々…すべてがよかった」と、その日の話をします。

この5年間で一番緊張したことを挙げると、令和元年度に開催された「鹿児島県・全羅北道交流30周年記念行事」です。これは、韓国全羅北道と調印した「友好協力の推進に関する共同宣言」から30周年という節目の年にあたり、全羅北道で開催された記念行事のことで、私も鹿児島県の一員として参加させていただきました。当時は、県の一員として参加できる喜びや感謝の気持ちとともに、重要な役割を任せられた



韓国全羅北道庁玄関口のウェルカムメッセージ

という緊張感もありました。私の主な業務は、日韓通訳。通訳初心者の私は、「通訳の経験も全くないのに、要人の通訳って…誰か教えてほしい」と思いつつも、「絶対に成し遂げてみせる」と決意を固めました。しかし、待っていたのは、厳しい現実。全羅北道知事の表敬訪問や副知事同士の面談などで、緊張しすぎてしまい、手が震えたり、冷や汗をかいたり、聞き逃した内容を何度も確認したり、相手側のベ

テラン通訳にビビったりするなど、あまり思い出したくない思い出となりました。

それでは、5年目の今は？今も、国際交流員の業務の中で、通訳業務が一番難しく感じています。厳しい事前準備、単に言葉を伝えるだけでなく、互いの文化やニュアンスの違いを理解した上で訳すこと、責任の重さなど、毎回通訳の大変さを実感しております。しかし、異なる言語を使う人同士のかけ橋となり、両国の交流が円滑に進められた時は、国際交流員としての最高の達成感が味わえるので、好きな業務でもあります。

県民の方々を対象とする出前講座やイベントへの参加も国際交流員の業務の一つで、この業務を通じ、多くの県民の方々と触れ合うことができました。

国際交流員として初めて小学校を訪問した時が思い浮かびます。それまで講師の経験が全くなかった私は、緊張感を持って学校へ向かいました。ドキドキする心を落ち着かせて会場に入ったら、小学生約200名が私を待っていました。初めての出前講座で全校生を対象とするとは思いませんでしたので、穴があったら入りたい気持ちでしたが、後半に進むにつれて緊張感が和らぐと、キラキラ輝く瞳で授業を受けている子供たちが目に入ってきました。その時、「子供たちには、私が初めての韓国人かもしれない」と思ったら、子供たちに会う時間がどれほど大事なものに気がつきました。この出前講座は、無事に終わりました。今、振り返ってみると、その時の経験が役に立って少し度胸がついたかもしれません。

そして、毎週水曜日は、かごしま県民交流センターで県民向けの韓国文化紹介講座を行います。この講座の参加者は、10年程前から参加されている方から、最近韓国文化に興味を持つようになり新しく参加された方まで、年齢もきっかけもそれぞれです。ここでは、韓国の年中行事をはじめとする伝統文化や、食べ物、K-POP、旅行情報、最新ニュース、基礎韓国語などをご紹介します。私自身も、この講座を通じ、韓国をもっと詳しく知るようになり、日本を学ぶことができました。

更に、時間が経つにつれて、この講座に臨む、私の心構えにも変化がありました。ただ国際交流員の業務の一つに過ぎないと思ったのが、いつの間にか、かけがえのない楽しみとなったのです。すべてが参加者の皆様のおかげです。皆様には、満面の笑

顔で声をかけていただき、韓国への興味を示していただき、災害が起きた時は、私の安否を気遣っていただくなど、たくさんの優しいお心遣いをいただきました。この優しさが、私の心構えを「もっと有意義な講座を設けたい。もっとこの時間を大事にしたい」に変えたのではないかと思います。

最後に、この5年間を一緒に過ごした、鹿児島県国際交流課の県職員と国際交流員の方々、そして、鹿児島県国際交流協会の方々、皆様とご一緒に働けて光栄でした。皆様からは、仕事への情熱・丁寧さ、そして、外国人への配慮・優しい心など、多くを学ぶことができました。皆様から学んだことを大切にして、これからも頑張りたいと思っています。心より感謝申し上げます。



念願の屋久島



霧島温泉郷での湯けむりの景色

鹿児島は、桜島をはじめとする豊かな自然に恵まれています。そして、和牛日本一に輝く鹿児島黒牛をはじめ、黒豚、魚介、焼酎など、美味しい食もたくさんあります。しかし、私にとっての鹿児島の宝物は、「人」です。鹿児島人は、少し人見知りをしているように見えますが、実は、心温かくて人情味あふれます。いつか鹿児島を思い出したら、豊かな自然の中で温かい笑顔を見せる鹿児島の方々が思い浮かぶでしょう。

鹿児島の皆様、この5年間、大変お世話になりました。鹿児島での素敵な思い出は、一生忘れません。ありがとうございました！

## 知事の動き

### ●在トリニダード・トバゴ日本国大使が訪問されました（12月22日）●

在トリニダード・トバゴ日本国大使館の松原大使が県庁を表敬訪問されました。

松原大使からは、外国青年招致事業（JETプログラム）において、現在、同国出身のALTが本県で活躍していることや、来年度も同館管轄国へ本県が招致を要望していることへの感謝のほか、東京オリンピック・パラリンピックの際、県内6町がカリブ諸国のホストタウンとなっており、今後も交流を進めていきたいということをお話いただきました。

JETプログラムやホストタウン登録を契機とした、本県とカリブ諸国の人的・経済的・文化的な相互交流が今後も継続されるよう期待しています。



表敬の様子

## かごしまの国際交流

●清華大学の酈部長らが訪問され、MOU（包括協定）3期目の更新をいたしました（12月20日）●

鹿児島県は、2013年8月に中国・北京の清華大学とMOU（包括協定）を締結し、これまで青少年・学生、学術、経済などの各分野で相互に交流を行ってまいりましたが、この度、3期目のMOUを締結いたしました。締結にあたり、清華大学国際部の酈金梁（リ・キンリョウ）部長をはじめ、大学関係者及び関係企業の皆さまが来鹿され、MOU更新を記念する懇談会を開催いたしました。

私からは、今後も清華大学とのさまざまな分野での交流を促進してまいりたいとお伝えしました。

酈部長からは、鹿児島県とのMOUは、清華大学にとって、外国の地方政府と締結する初めてのものであり、今後も人材育成、芸術文化など多様な分野での長期的な交流を続けていきたいとお話がありました。

また、懇談会では、薩摩琵琶の演奏や鹿児島の食材を使った料理など「南の宝箱鹿児島」を堪能していただきました。



◀ MOU 更新お披露目

集合写真 ▶



## かごしまの出来事

### ●第41回いぶすき菜の花マラソンが開催されました（1月14日）●



写真協力：鹿児島県南薩地域振興局

1月14日に第41回いぶすき菜の花マラソンが指宿市で開催されました。国内外のランナーおよそ7,500人が新春の指宿路を駆け抜けました。

「いぶすき菜の花マラソン」は、一年で一番早く開催されるマラソン大会です。市民総出の沿道での応援や、ぜんざい・ふかし芋などのふるまいでランナーをおもてなしするのが魅力です。

九州最大の湖「池田湖」や薩摩富士とも称される「開聞岳」を眺めながら満開の菜の花の中を駆け巡ります。高低差のあるコースながらも、制限時間は8時間と初心者の方でも参加しやすい大会です。走った後は、名物「砂むし温泉」などで疲れを癒すこともでき、1日で指宿を満喫できるイベントです。

2024年は初めての取り組みとして、人数限定ではありますが、菜の花と池田湖、開聞岳の風景が美しい池田湖畔をフィニッシュ地点とした、約12kmの「ファンランニングー池田湖コースー」が同時開催されました。

